男山地域まちづくり連携協定

#外国語
#異文化
#多文化共生

イベント終了後、打ち解けた雰囲気での集合写真

DATA

- **主な連携先・メンバー**
  京都府八幡市／独立行政法人都市再生機構（UR 都市機構）
- **活動地域**
  京都府八幡市
- **活動期間**
  2021 年度～継続中
- **活動資金**
  八幡市受託研究

目　的

グローバル化の進展に伴い外国人住民の数が増加する中で、日本人住民と外国人住民が互いの言語と文化を理解しながら共生できることを目標に活動している。

連携にいたる経緯

八幡市との協定により、江川直樹名誉教授と環境都市工学部の大影佳史教授が「住みたい、住み続けたい」街作りで多くの成果を上げていた。そこで、高橋のゼミの活動を通じて、言語・文化領域でも貢献したいと思い、連携に参加させていただいた。

活動内容

外国語を学ぶ上ではコミュニケーション能力の育成が重要であるとよく言われるが、多くの場合、教室内での学びで完結しており、実際にその外国語を使う機会があまりない。そうしたことから、日本人は特に発信力が弱いということがさまざまな調査から分かっている。本活動では、自分の思いを外国人留学生に英語で伝える経験を通じて、自らの社会や文化のことを英語で発信することの大切さと楽しさを感じてもらうことを目標とした。

日本人にとっては英語が難しいことから語学学習者に気を取られる傾向があるが、むしろ誰に何を伝えるために英語を学ぶのかを考えることが大切である。ゼミ生たちは外国人留学生の協力を得て「Have fun in 八幡はちまんさん！」を企画し、石清水八幡宮を舞台に、このプログラムに参加してくれた市内の中学生、高校生、大学生に英語で発信する体験をしてもらった。そこでは「日本文化を発信する」「国際交流を楽しむ」「八幡を深掘りする」を主軸として、外国の方に地元の文化を英語で伝えたいという気持ちを参加者に持ってもらえるよう工夫をした。

グループに分かれて
自己紹介と打ち合わせ

イベント開始前の散策。ゼミ生と留学生

イベントの説明を
注意深く聞いている参加者

活動の成果

- 石清水八幡宮のことを英語で発信する楽しさを参加者に実感してもらうことができた。
- 外国人留学生に日本文化を伝えることで、国際交流を推進できた。
- 発信するための英語力が大切であることを参加者に体感してもらうことができた。

今後の課題・目標・展開の可能性

- 英語を含めて、多様な言語・文化に楽しみながら触れるイベントの開催。
- 市民が外国の言語・文化に興味を持ち、自発的に活動するためのサポート。
- 複言語主義に関心がある自治体や団体などとの連携。

連携先からの一言

関西大学の留学生も参加し、生の英語に触れることで、外国語を使った交流の楽しさを感じてもらうとともに、外国語を話したいという想いを育む貴重な機会となりました。今回は京都府立京都八幡高校 ESS 部にも発表の機会を持ってもらいました。

（八幡市市民協働推進課）

外国語学部 教授　高橋　秀彰 Takahashi Hideaki

専門は社会言語学、言語政策論。移民を対象とする言語教育、グローバル化における機械翻訳の活用、国家・地域における言語政策などに関心を持っている。